



## 就任のあいさつ 会長 富田 たくし 彪

新緑の美しい季節となりました。

このたび地域力向上委員会の会長に推挙され、お引き受けすることになりました。

今まで担当させていただいた事務局や広報、そしてコミュニティーグループなどの地域活動をとおして思いますことは、ただ漫然と見てきた地域を、意識して観るようになったことでしょうか。そして何よりの収穫は多くの人と言葉を交わす機会を得、たくさんの方々を知り合えたことでした。人を知るといことは言葉を交わすこと。このことは地域コミュニティーの原点でもあります。

掛川地域力向上委員会も今年で 5 年目を迎えます。まちづくり協議会発足から数え

ますと 13 年目になります。豊かな自然に恵まれた掛川地域で、いろいろな活動の中からよりいっそう豊かなコミュニティーづくりが進められたらと思っております。肩の力を抜いて無理をしないで地道にやっていきましょう。そのなかから地域力向上委員会の役割とは何なのかをみんなで考えていきましょう。

会長としての役割を十分果たすことができるかどうか甚だ心もとない思いではありますが、会員一人一人が主役となって楽しく活動していただけるよう、みなさまのご支援・ご協力をいただきながら精いっぱい努力してまいります。どうぞよろしく申し上げます。



## 退任のあいさつ

前会長 加藤 俊 男

平成 27 年の地域力向上委員会総会にて会長に推挙され 3 年間にわたり会長を務めることができましたのは、地域の皆様をはじめ役員の方々のご理解とご協力をいただいたことを心より感謝申し上げます。

さて、永年の懸案事項であった学童保育「かけがわっ子ひろば」を立ち上げることができました。また、地域の中で困りごとを手助けする「お助けたい」もつくることができました。掛川地域のイラストマップも作

成することができ、皆様に大変好評を得ました。これもひとえに役員の方々から精力的に取り組んでいただいた賜物であることを心より喜んでおります。次期会長は大変有能な方であり、安心してバトンタッチすることができること嬉しく思っております。

おわりに会長を降りましても役員として残りますので、今後ともご支援ご協力よろしく申し上げます。3 年間にわたり大変お世話になりましたことを厚くお礼申し上げます。

## 掛川地域力向上委員会総会が開催されました



5月12日(土)、平成30年度掛川地域力向上委員会総会が掛川小学校体育館で開催されました。恒例の子どもたちによる和太鼓が披露された後、昨年度の事業報告や今年度の役員選出、事業計画などが協議され、出席者の皆さんにより承認されました。新会長には、富田彪さんが選任されました。

登下校の見守りや環境美化、絵はがき、筍まつりなど、掛川地域力向上委員会の取り組みは、本市における地域づくり活動のリーダー的、先進的なものばかりで、とても頼もしく、うれしく感じています。今後も地域の自然や伝統を守りながら、誰もがいきいきと自分らしく暮らせるまちづくりを皆様と共に進めていきたいと思ひます。(伊藤保徳瀬戸市長)



### 平成29年度事業報告

- 広報活動 広報「やまびこ」6回、号外4回発行
- 子育て支援活動 「かけがわっ子ひろば」の運営、登下校の見守り、学習田や学校行事のサポートなど
- 高齢者支援 「お助けたい」活動による草刈り、買い物代行、高齢者宅への安否確認など
- 地域の環境美化活動 花壇7か所への植栽2回、ごみ拾い2回など
- 地域コミュニティ活動 筍まつり、掛川のイラストマップ配付、ふるさと探訪ウォーキング(2回)など
- その他 盆踊り、掛川スポーツフェスタなど



### 平成30年度新規事業

- 掛川のイラストに俳句、短歌、エッセイなどを入れた小冊子を作成します(平成31年度完成予定)
- 児童の登下校の見守り活動用のウィンドブレーカーを新調します(50着)

## 第12回筍まつりを開催しました



4月22日(日)汗ばむような晴天の下、恒例の筍まつりが定光寺公園にて盛大に行われました。

すがすがしい新緑に囲まれた販売には多くのお客様がお越しください。整理券の配布を心待ちにしていられ、わかたけ汁の振る舞いや筍料理の試食も行われ、みなさん様に「とても柔らかくておいしい」とおっしゃっていました。

今年は筍が豊作で収穫量は約1トン。筍まつりでの売り上げは309袋(約3kg入/袋)154,500円でした。

前日および当日たくさんの筍を掘ってくださった方々、まつり当日の会場設営や販売に携わってくださった方々、美味しい筍料理を作ってくださった方々、筍をご提供くださった方々、ご協力ありがとうございました。そしておつかれさまでした。



## 掛川スミレ図鑑

定光寺町と下半田川町では、さらにコスミレ、ノジスミレ、ナガバノスミレサイシン、マルバースミレ、コタチツボスミレなどを観察できます。



スミレ



ヒメスミレ



アリアケスミレ



タチツボスミレ



ケイリュウタチツボスミレ  
(蛇ヶ洞川や御手洗川の岩の上)



アオイスミレ  
(蛇ヶ洞の車道横に生育)



ニオイタチツボスミレ



マキノスミレ



フモトスミレ



ツボスミレ



ツクシスミレ  
(定光寺町で野生化)

# ヘルメット貸し出します!!

高齢者支援グループは、作業の安全性の向上に努めるため作業用ヘルメットを10個購入しました。そのヘルメットを地域の方々が自宅等で高所作業、伐採等に携わる場合など、貸し出します。



お問い合わせは、高齢者支援グループ

定光寺町 中野 勲 ☎ 48-4046

下半田川町 前田 純二 ☎ 48-4434

我が家にこんなものがありました

定光寺町 柴田さん宅

## 行火(あんか)

家の片付けをしていたら、こんなものを見つけました。行火(あんか)です。そこでちょっと、暖房器具のことを少し調べてみました。

炬燵は、室町時代に囲炉裏の上に、櫓を組み布団をかけたものが櫓炬燵の最初といわれ囲炉裏を床より下げ床と同じ高さで布団を置く上段との二段の櫓を組み足を入れる掘り炬燵となりました。更に、囲炉裏の周囲まで床より下げ腰かけ炬燵ができました。1909年(明治42年)東京・上野にイギリス人陶芸家バーナード・リーチが正座が苦手なために自宅に作った掘り炬燵が住宅向け腰掛炬燵の最初と言われています。

行火は、一人用で持ち運べる暖房器具の一つです。布団などに入れ直接手足に当てて暖をとります。地域や世代によっては「こたつ」と呼ばれることもあります。熱源としては古くは、木炭・炭団(たどん)・豆炭が用いられました。木炭が火種なのであまり長

い時間は持たなかったようです。火加減や陶器自体に伝わる熱の加減など調整はかなり難しかったでしょう。瓦土製の置き炬燵や置き炬燵を格子の木枠で囲む櫓炬燵に続いて安全炬燵が開発されました。

今回、見つけた行火は、調べてみると一般には「番屋炬燵」と言われているようです。昔、番屋などで暖を取るために使われていたのでしょうか。



今回見つけた行火  
(外に出ている陶器の器に  
木炭や炭団を入れ黒の陶器  
の中に入れて使用する)

会員の声

## 雑事雑念

下半田川町 巖嶋豊之助

巖嶋さんは本業は作陶家ですが、多彩な能力をお持ちで、何をやっても本職顔負けです。掛川小学校のお茶会では長年、子どもたちに茶道を指導していただいています。

日毎に山の緑は濃く、早くも初夏の風情ですね。

50年程続けた製陶の仕事を、昨年の春に退き、気ままな日々を過ごせると思っていた所、あにはからんややるべきことの多さに四苦八苦の毎日です。

私は京都市育ちの元来怠け者のへっぴこ老人なのですが、この地に住んで35年余りの間、貧乏故に石積み、土方、大工、草刈、薪作りに追われてきました。

20年程前から知人に頼まれて茶道を指導するようになり、毎晩同好の志と楽しく過ごしています。

場所を提供する事位しかできず適当にお茶を濁しているだけです。

昨年、京都の大山崎にある待庵(たいあん)という千利休が作った三畳ほどの茶室を見学した時に感じました事は、やはり日々命をかけて暮らしていた人達の息遣いの気配はさすがで、歴史の重要な一場面を見せて貰ったという思いでした。

そこで秀吉と利休は膝を突き合わせどんな思いで一碗の茶をすすったのか？天下統一の秘策なのか？下司な話に花を咲かせたのか？

あまりに違うタイプの二人の腹の内は興味津々ですね。

吾が荒屋にも少し手を入れればその大きさの場を設ける事が出来そうな気がしていますが、おそれ多い事かも知れません。

庭の小さな花壇に清楚なうす紫の都わすれが咲いています。

都を出て長く田舎暮らしが続き、京都のことなど思い出の彼方になってしまいました。

今は、外人と土産物屋で溢れた所なんぞうんざりです。

私の身体が受け付けなくなっただけですね。住めば都といいますが、私には掛川が一番の都です。



### 編集後記

新しい年度が始まりました。地域力向上委員会の広報部も新しい体制になりました。まだ、慣れない広報誌づくりですが、皆様に楽しんで読んでいただける広報誌にしたいという思いでがんばっていきます。よろしく願いいたします。(広報部員一同)